

人の値うち

何時かもんぺをはいて
バスに乗ったら
隣座席の人は私を
おばはんと呼んだ

戦時中よくはいたこの活動的なものを
どうやらこの人は年寄りの
着物と思っているらしい

よそ行きの着物に羽織を着て
汽車に乗ったら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは
着物で決まるらしい

講演がある
何々大学の先生だと言えは
内容が悪くとも
人々は耳をすませて聴き
良かったと言う
どうやら人の値うちは
肩書で決まるらしい

名も無い人の講演には
人々はそわそわして帰りを急ぐ
どうやら人の値うちは
学歴で決まるらしい

立派な家の娘さんが
部落にお嫁に来る
でも生まれた子供はやっぱり
部落の子だと言われる
どうやら人の値うちは
生まれた所によって決まるらしい

人々はいつの日
このあやまちに気付くであろうか

江口いとさん プロフィール

一九二二年、愛媛県生まれ。
八人兄弟の末っ子として漁村の部落に生まれ、二十歳で結婚。戦争
で夫を失い、二人の子どもを育て、息子や孫への三代にわたる差別
を経験した。

自分の余生を部落解放のために尽くしたいと念じ、各地の講演会
では、自分や自分のまわりに起こった悲惨な差別についてその忌ま
わしさと怒りを話すとともに、詩歌集「荊を越えて」、江口いと人
権の詩「人の値うち」を出版するなど、二〇〇九年、九十六年のそ
の生涯を終えるまで精力的に活動し続けた。

出典『人の値うち 江口いと人権の詩』

(江口いと著、今野敏彦編・解説、明石書店発行)

島根県人権啓発推進センター

注) 出典資料である『人の値打ち 江口いと 人権の詩』発行所の了解を得て掲載しています。
転載される場合は、必ず発行所「明石書店」の許可を得てください。